

## ピアノ アドバイザー



### 小堺 香菜子

栃木県下野市出身。宇都宮短期大学附属高校音楽科卒業。同卒業演奏会出演。宇都宮短期大学音楽科ピアノ演奏専攻卒業。同卒業演奏会出演。武蔵野音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。宇都宮大学大学院教育学研究科音楽科教育領域修士。

宇都宮短期大学創立 50 周年イベント宇都宮短期大学管弦楽団&栃木県地域オーケストラ合同演奏会においてピアノコンチェルトソリストとして出演。第 31 回島村楽器音楽コンクール全国大会において金賞受賞。

100 万人のクラシックライブや、小学校での音楽鑑賞講座、宇都宮短期大学音楽科県北地区演奏会、須賀学園創立 120 周年記念 X'mas ファミリーコンサート、とちぎテレビ放送「わいわいボックス」演奏出演、「わいわいボックス」ライブ配信出演、ドライブインコンサート in 宇短大長坂キャンパス出演、伴奏共演など多方面で音楽活動を展開している。

ピアノを黒川美夕喜、阿久津佐智、高坂朋聖、イリヤ・イーティン、高橋洋子、グジェゴシュ・ニャムチャックの各氏に師事。現在、宇都宮短期大学附属高等学校音楽科教諭。

## 1. 『非日常の体験を』

ホールでの演奏は、非日常の体験を味わうことができます。私が初めてホールでソロ演奏を経験したのは、5歳の時のピアノ発表会です。今でも記憶が鮮明に残っており、お辞儀をしようとする、スポットライトの明かりが眩しく目の前は真っ暗、お辞儀をすることを緊張で忘れてしまいました。しかし、いざ演奏が始まると、家で練習するピアノの音とは違う、聴いたこともないような響きがして、味わったことのない気持ち良さを感じたことを覚えています。

後になってこの気持ちは「非日常の体験」だったのだと知りました。作曲家、指揮者である星野和夫先生（元宇都宮短期大学音楽科学科長、教授）から、“「非日常の体験」をさせていくのが真の芸術家である”と学びました。演奏者である自分だけでなく、聴き手である観客とも、「非日常」を体験することが重要です。

これからそうした体験をする・していただくには、どう演奏したらよいか述べていきます。



宇都宮短期大学管弦楽団&栃木県地域オーケストラ合同演奏会

## 2. 五感全てを感じて

五感とは見る・聞く(聴く)・かぐ・味わう・触れるの5つの感覚です。ホールで演奏する際はこうした感覚を研ぎ澄まします。

まず、「見る」ではホールに到着してそのホールがどのくらい大きいのか、どこに音が飛びやすそうなのか、確認しましょう。そしてホールの美しさを存分に堪能しましょう。また、お辞儀をするときは、ホール全体を見渡し、どこまで音を響かせたいか、確認しましょう。

次に「聞く(聴く)」では、ホールがどのように響くのか確認しましょう。音響、残響が今まで練習していた部屋とどう違うのか、確認します。演奏家は無意識にホールの環境に応じた打鍵のタイミング調整を行っています。残響が長ければ、打鍵のタイミングや、ペダリング、ダイナミクスの幅を調整しなくてはなりません。またピアノには個性があります。そのピアノがどう鳴るのか事前に確認しておきましょう。最初の1音から集中して聴き、自分が聴こえる音ではなく、ホールにいるお客さんにどう聴こえているのか想像して調整しましょう。

次に「かぐ」ですが、皆さん本番のステージの上でどのように過ごしていますか。私は毎回とても緊張しますが、落ち着かせるために大きく深呼吸をします。落ち着くことはとても大切だと思います。

そして「味わう」ですが、色々な演奏家の演奏を聴き、「非日常の体験」を自分自身が味わうことが大切です。演奏をたくさん聴いて、自分の表現に繋げていきましょう。また本番前後、美味しいものを食べてストレスから解放されることも大切です。普段からたくさん食べてスタミナをつけましょう。



紀尾井ホールでの演奏リハーサル

最後に「触れる」です。前にも述べましたが、ピアノには個性があります。そのピアノの鍵盤の感触や、ペダルの効き具合などすべて違います。本番前に触れてピアノの個性を感じましょう。



宇都宮短期大学音楽科県北地区演奏会

### 3. おわりに

緊張している状態での演奏は普段とは違う感覚がたくさん生まれます。落ち着いてその感覚を感じることができると、普段の練習では体験することのできない感動が生まれます。ここに緊張から生まれる音楽、すなわち「非日常の体験」に繋がります。

ステージに一歩足を踏み入れた瞬間から、音楽は始まっています。是非、ホールで沢山の演奏経験を積みましょう。そして、本番を楽しみましょう。



ヤマハ掛川工場にて、学校で購入するピアノを選定する際の試演